アイディア紹介

心身に障害をもつ子の サイコロ遊びによる数の指導

福島県立郡山養護学校教諭　**渡辺　高嘉**
（肢体不自由）

1. 実　態

本校は肢体不自由児のための養護学校である。近年，いわゆる重度重複化，多様化がみられ，肢体不自由のみならず，知的な遅滞を伴う子どももふえてきている。この事例の対象とした子どもたち７名も肢体不自由（脳性まひ６名，筋萎縮症１名）で，知的な遅滞（津守式乳幼児精神発達診断法による発達年齢，１歳段階～１名，２歳段階～２名，３歳段階～３名，４歳段階～１名），そして言語障害（発語なし～１名，構音障害～４名，発語可～２名）を併せ持っている。なお，自立歩行は全員不可である。

この子たちは，施設内療養中の重複障害課程を履修する学級に在籍し，生活科を中核とし言語（国語）数量（算数），道徳，特活の内容を総合し編成した統合学習Ｉと，養護・訓練を中核とし音楽，図工，体育の内容を統合し編成した統合学習IIを展開している。学年は，１年～１名，２年～２名，３年～３名，４年～１名という混合構成である。

2. 計　画

この事例は，統合学習Ｉの実践である。年間計画について，主題名と，特に数量に関する分野について記すと次の通りである。

月	主題名	数量	
4	新しい学級	なかまあつめ	1～5までのかず
	たのしいさんぽ	くらべっこ	
5	えんそく	指絵と数あわせ	
	じょうぶなからだ		
6	雨ふり	数図と数あわせ	
	たのしい水遊び		
7	たなばた		
8	夏休み	あてっこ（数と形）	1～10までのかず
9	運動会	指と数あわせ	
	たのしい動き		
10	球技大会	数唱えと数かぞえ	
	たのしい遠足		
11	秋の野山	じゅんばん	
		まとめていくつ	
12	クリスマス	自分の年齢	
		どっちが大きい（数の大小）	
1	冬のあそび	かたちくらべ	1～20までのかず
		どっちが多い（数の多少）	
2	豆まき	豆や目のかず	1～20までのかず
	サイコロ遊び	あわせていくつ	1位数＋1位数
3	もうすぐ上級生	来年は何年生	（くり上りのないたし算）
		なかまわけ	

これまでに，この学級の子どもたちは，具体物や半具体物によって，１対１の対応づけに，普段の学習の中で数多く取り組んできた。そこで，簡単な数と事物との対応を，さらにそれらに基づいての順番などの数の理解を，遊びの中で体験を重ねるうちに身につけさせようとして，サイコロ遊びによる数の指導の導入を計ったわけである。

松原(1)によれば，幼児期の数の分野とは次のようなものである。① 数唱（数を正しい順序で唱える） ② 計数（物と数とを正しく一つずつ対応させて数える） ③ 集合数（みんなでいくつあるかが正しくいえる。すなわち，数えおわった最後の数の名前が全部の個数である） ④ 多少判断（数の多い少ないがわかる） ⑤ 順序数（前、後、右，左から何番目がいえる） ⑥ 数字の読み書きができる。 ⑦ 加減算（和が10以内のたし算，ひかれる数が10以内のひき算ができる）

そこで，この学級の子どもたち（発達年齢が１～４歳）にとって，上述のような分野への取り組みは必要であると考え，このサイコロ遊びによって，このような分野の一つ一つの理解，定着，向上を図り，さらに，総括的な取り組みによる伸展をめざした。

3. 展　開

さて，指導の実際は，12時間の取り組みであったが，その展開は，次の通りである。

(1) サイコロころがし

① 出た目はいくつ～A いち，にい，さん……と数える（３時間） B．フラッシュカード式にひと目で見取る。（３時間）

② あわせていくつ～２個のサイコロで出た目をあわせて数えたり，見取ったりする。また，出た目の回数を比べる。（３時間）

(2) サイコロ選び

ころがして出た目の数を見取って，その数の分だけ移動し，数やあがりの順番を理解する。（３時間）

ここでは，(2)のサイコロ遊びについて詳細するが(1)の①のＡの取り組みでは，集合数（殊に，数えおわった最後の数の名前が全部の個数であること）の指導に，(1)の①のＢでは，一目で見取って，指で示させ，さらに数字カードでの確認に，(1)の②では，２つのサイコロの出た目を見取って，あわせた数をいえる指導に，それぞれ力点をおいた。